◆横浜校 自己点検評価 報告書 (2024年度活動評価)

日産横浜自動車大学校

※評価凡例 :4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA 当てはまらない

基準1 教育理念・目的・育成人材像等

【1】 理念・目的・育成人材像

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか。	4	・理念・目的・育成人材像は、明確に定められている。	3つのポリシーの更なる浸透は必要と考える。学校の中期教育計画に明確に掲げ取りんでいる。 FY25新課程の立ち上げに伴い、追加を検討中。	ホームページ ・学校の教育理念

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界ニーズに適合しているか。	3	メーカー(日産自動車)が販売会社に提供している、新しい整備技術・ノウハウ、また、お客さまへの対応技術などをベースにした教育により、販売会社へ入社後の即戦力化を図っている。	大半の卒業生の就職先である日産販売会社での受注・精算システム(プロフィット)や部品検索システムの学習などは、対応要望もあつたが済み。今後も引き続き、販売要望からの教育内容の改善を継続してゆく。	ホームページ ・学校の教育理念 ・学科特色・カリキュラム ・販売会社卒業生アンケート ・シラバス

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
1-3 社会のニーズを踏まえた将来構想を描いているか。	4	コロナ対応から学習の質を高める為のオンデマンド授業に位置づけを変更、対面授業を中心としたICT授業にも着手している。	まずはICT教育メリットの教員・学生双方の理解促進。更にその有効活用具体化は今後の課題。学校選択の端末であるスマホの授業とプライベートでの使い分けも課題。試行錯誤を繰り返しながら成果へとつなげたい。	ICTちらし

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
2-2 設置法人は、組織運営を適切に行っているか。	4	・「日産自動車(株)」「学校法人 日産学園」および「学校法人 愛自学園」の3つの組織で連携した「日産・自動車大学校」としてルールを定め、組織運営・意志決定等を効果的に適切に行っている	特になし	ホームページ ・日産自動車大学校組織図 ・日産横浜自動車大学校校務分掌組織図 ・教職員の組織(学則第8条)

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
2-3 人事・給与に関する制度を整備しているか。	4	日産横浜自動車大学校の人事・給与制度は「学校法人 日産学園」の基準で運用されており制度の整備は行われている ※FY20:各種休暇制度/人間ドック援助制度/住宅補助等の規定	特になし	人事規定

基準3 教育活動

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
3-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めている	4	学校理念・方針に沿って中期計画、年度計画を策定し、各教育課程の編成を行っている。	来年度より、留学生課程の新設を予定。 また、モータースポーツ科については、27年度をもって廃科とする。	ホームページ ・学校の教育理念 ・学科特色・カリキュラム
3-2 教育目的、目標に沿った教育課程を編成しているか。	4	3つのポリシーに基づいた教育目的、目標により教育課程を編成している。	外部調査機関によるディプロマポリシーの定量検証を全学年で23/3月に実施。調査データからはほぼ全学年で人間力の成長が見られた。継続的な検証が大切。	ホームページ ・学校の教育理念 ・学科特色・カリキュラム
3-3 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	4	課程ごとの目標に沿って、各教科の成績評価を行い、修了認定基準をシラバスにより公開・運用している。	特になし	ホームページ ・学校の教育理念 ・人材育成の目標及び教育指導計画 ・学科特色・カリキュラム ・成績評価／進級・卒業要件
3-4 目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置付けている	4	すべての法定教科は目標とする資格(国家一級、国家二級)のためのものであり、年間カリキュラムに織り込んで明確に定められている。直前の国家資格対策もカリキュラムに織り	特になし	ホームページ ・資格取得、検定合格実績 ・キャリア教育への取り組み状況
3-5 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	3	必要な資格・専門性を有した教員を常勤で必要数確保している。 同時に専門性や、教授力向上の為教育研修の実施、外部研修への参加を行っている。	販売会社からの出向者に頼る部分は大きい適性を踏まえた転籍も実施し体制の安定化に努めている。現状、国家1級教員も9割を超えている。	ホームページ ・教職員の組織、教員の専門性 ・校務分掌

基準4 学修成果

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
4-1 就職率の向上が図られているか	4	就職希望者(求職)全員に対して、就職を斡旋し、毎年100%の実績を上げている。 加えて自己開拓(斡旋を希望しない)の就職者に対するサポートも実施、進学・母国帰国など一部の学生を除いて就職を獲得している。	卒業生全員、就職率は100%。自動車整備工場又は自動車関連の生産・開発の業種への就職は好調。	ホームページ ・卒業後の進路 ・就職支援
4-2 資格・免許取得率の向上が図られているか	4	国家二級整備士資格は留学生の増加に伴い対応に苦慮している。 国家一級については、継続して高い合格率を維持し、同時に既卒の未取得学生へのサポートも実施している	全員合格は実現できているが、留学生が増えたことによる学習ベース、個別フォローなど従来以上に負担が増加している。 自己学習できる環境と教材の提供が必要と考えている。	ホームページ ・資格取得、検定合格実績 ・キャリア教育への取り組み状況 ・シラバス
4-3 卒業生の社会的評価を把握しているか	4	卒業生アンケート(就職先と卒業生の声)や、企業訪問時(インターンシップ訪問など)、就職先の技術大会への選抜の状況などを通じて把握している。	主要な就職先販売会社に対し、卒業生の評価アンケートを継続的に実施することで、業界動向・要求レベルに対する自校の教育への評価を把握し、順次教育カリキュラムへの反映・見直しを実施している。	ホームページ ・アンケート結果

基準5 学生支援

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ●学務部の就職担当と教員とが連携し、毎年見直しする就職STDをベースに、円滑に行われている。 ●就職先企業ガイダンスの実施や、企業情報、企業訪問、会社説明会の展開を実施しており、個別面談(就職先企業の情報確認など)によるアドバイス、身だしなみ指導、履歴書の書き方から面接試験のトレーニングなども実施している。企業別・個人別の進捗状況はリアルタイムで確認出来る。 ●一方で、24年4月には47名の留学生在が入学、25年4月からは国際自動車整備科も新設となり、増大する留学生の確実な就職先の確保が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●留学生受け入れの実績のない6割の販売会社への働きかけ ●留学生受け入れ販売会社からのメリットデメリットの収集とデメリットへの方策の実行 ●一定水準に達していない留学生の就職に苦戦している。(日本語学、コミュニケーション、特に専門用語、国家3級漢字等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業実践専門課程(基本情報) ・就職STD

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-2 退学率の低減が図られているか	2	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任2人体制で、担任の先生による定期的な学生面談や学生相談窓口の新たな設置、毎月の外部専門医によるメンタル相談など退学に至る前の相談窓口を設置している。 ・教員の研修等でも、アンガーマネジメントや障害など多様な学生への教員の対応等も実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境の変化や多様な学生が入学しており、学校で対応しきれない理由での退学も増えており、更なる対策検討が必要。 ・学力が原因での退学については、学校としても(留学生の日本語力向上も含めた)入学前プログラムを実施や、個別での学力の底上げを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業実践専門課程(基本情報)

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-3 学生相談に対する体制は整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・月に一度、外部のメンタルカウンセラーに来てもらい、学生が直接相談出来る取り組みを実施している。 ・18年度より学生が直接学校に話を聞いて欲しい場合の相談窓口「駆込み横浜」を設け、メールで相談出来る仕組みを構築した。 また、毎年11月学生に、ハラスメントアンケートを実施し、 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月学生カウンセリングの対応については、相談件数が減少しており、相談が必要と思われる学生へのアプローチ等も難しい状況もあるが空き時間の活用も検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-4 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 学生支援機構の奨学金制度をはじめ、当校独自の奨学金制度や企業奨学金制度を学務部の職員が中心となり希望者に勧めている。 従来の学費納付に加え、分納制度による納付も可能としている。また、国や学生支援機構からのコロナによる家計急変による緊急支援制度等を十分活用し、学生の経済面の支援をしている。 SGT/S耐スポンサーからの奨学金(留学生含め)の支援も 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年採用された、高等教育の修学支援制度の対応やコロナウイルス対応による家庭の急変対応等、学生の不公平感の出ない対応とする。 特にコロナによる留学生のアルバイト先環境の変化や、母国からの仕送りSTOP等を受け、生活困窮に陥るケースや、退学に落ちるケースもあり具体的な支援の検討、運用も必須。 	募集要項(奨学金)

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-5 保護者との連携体制を構築しているか。	4	<p>学生の出欠状況、学業、生活態度、トラブル等、懸念されることは主に電話にて保護者と綿密なコミュニケーションを図っている。また、ケースによっては保護者面談を行い、学生情報の共有、指導方法、進路相談などについて連携を取っている。(補講代等一部ルールが伝えきれていない)</p>	<p>・コロナウイルス解消後の、学校運営について、保護者に状況を伝える為、保護者レター、Web、TEL、授業状況など保護者通信の発行、等で連携を密に従来の学校運営を十分理解頂き、不安解消に努める。・入学前に伝えるすて一歩を踏み</p>	

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-6 卒業生への支援体制を構築しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の国家資格の未取得者に対して1年間のフォローを実施している。 卒業生への支援については、学校HPにて、必要情報は提供できている。 販売会社との連携により、定例的な会議の場で、卒業生の情報を入手している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、卒業生の動向等を把握する支援体制を検討していく。(HPを使って連携をとる) 学園祭にてホームカミングデーを定期的実施し、卒業生との情報交換の場を設定する。 就職活動等で、販売会社に就職した、学校の先輩に体験談や将来に向けてや、学生の皆さんに期待すること等含め、「先輩の背中を知る」機会を設定し実施した。 資格取得向けのフォローを実施(口述試験対応)各企業との連携を密にする。 	学校HP

基準6 教育環境

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
6-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか。	3	カリキュラム対応/新車・新技術対応ができるよう毎年、設備の整備・更新を図っている。ICT授業の推進に向け、学生とのコミュニケーションアプリの導入、学内ネットワークの環境整備はFY21に完了。	ICT授業については、オンライン、オンデマンドでの授業の範囲が拡大できないため、現状の携帯端末を活用にとどまっている。特定整備認証工場の手続きも滞っており実施していきたい。	ホームページ ・実習設備・車両ほか

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
6-2 学外実習・インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4	FY24より海外研修を4年生で再開。インターンシップ・内定者研修・店舗見学・販社体験実習など、卒業後の社会体験に関する取り組みは、販売会社と継続して実施している。	コロナへの懸念は無くなってはいないが、沈黙化と判断し、海外研修は再開。各種研修については、受け入れ販社のニーズも鑑み、今後の継続を検討したい。	ホームページ ・実習・実技への取り組み状況 ・学校行事への取り組み状況

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
6-3 防災に対する組織体制を整備し適切に運用しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・火災に対する体制は整備されている。防災訓練を継続的に実施する事を重視して実行している。 ・自衛消防隊を組織し、毎年、学生・教職員の防災訓練を実施している。地震に備え防災倉庫も保有している。 ・学生寮においても、自衛消防隊を組織し、夜間、休日防災訓練を定期的実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害(大地震)に対しての一次避難場所の設定が適切かどうか再度検討する必要あり(建物倒壊、GSの隣接等)。設備面では、実習場等の棚などの転倒防止対策は完了し、実習場の天井補強、床面補修については、FY19、FY20で修繕完了⇒床面は全面補修ではなく部分補修の為、剥がれ、浮きの発生の可能性もあり、随時ウオッチしていく。22年1月以降、また床面のひび割れが発生したため地区CAPEX案件として対応していく。 ・コロナ禍での防災訓練等、は初期行動を中心に実施しているが、With コロナ防災訓練として今後実施も必要 	

基準7 学生の募集と受入れ

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
7-1 学生募集を適正、かつ効果的に行っているか。	3	適正に行われている(年度計画を作成し、目標に対する諸活動を明確にしている)が、24・4の入学者目標を達成できていない。	次年度目標を達成する為の施策の積み上げ、年度毎の状況に沿った方針や対応策を取る。整備士の魅力度向上や、奨学金関係の充実、既卒・女子学生への誘引、特におひざ元の神奈川県での入学者増に向けて、エリア長体制の強化やOC参加への対応含め一貫貫業務運営とする。 ・一級、(4大との差)	募集要項

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
7-2 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか。	4	AO入試、一般選考、推薦選考すべて、基準に基づき公平に合否判定を行っている。	特になし	募集要項

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
7-3 経費内容に対応し、学納金を策定しているか。	4	・教育内容、設備維持費用など世間相場を考慮して実勢に合わせる形での改正を行っている為、妥当と認識している。 ・FY25より実験実習費を年6万円値上予定。	特になし	募集要項

基準8 財務

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
8-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	日産自動車の一部署であるため、財務基盤は安定している。	・学校単体での収支改善に視点を置き、経費の削減に向けた取り組みを実施していく。	日産自動車IR資料
8-2 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定して	4	教育を円滑に進めていくために必要な資源を確保し予算を策定しており、有効、かつ妥当なものになっている。 横浜校としても中計を策定し、方策を実行中。		
8-3 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を行っている	NA	私立学校法人ではない。		
8-4 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか。	NA	私立学校法人ではない。		

基準9 法令等の遵守

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営を行っているか。	4	日産自動車のコンプライアンスポリシーに則り、該当する法令は遵守され、適正な運営が図られている。	特になし	日産行動規範
点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料
9-2 職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っているか。	4	職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っている。	特になし	職業実践専門課程申請関係書類 ※事前には、HP情報公開で確認方
点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-3 学校が保有する個人情報に関する対策を実施しているか。	4	日産自動車のセキュリティポリシーに則り個人情報保護に努めている。 ・統一の教務・学務のシステムでは、適切なアクセス権が設定され、不必要なデータへのアクセスが出来ないようにしている。 ・教職員には、情報セキュリティや、個人情報保護に関する	特になし	
点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-4 自己点検評価、学校関係者評価を適切に行っているか。	4	適切に実施している。	特になし	自己点検結果(HP) 学校関係者評価結果(HP)
点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-5 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか。	4	教育情報についても学則・カリキュラム・シラバス・資格取得実績・就職率等、2014年度からHPにて公開している。	2018年度より学校教育の理解促進のために、より詳細な情報として合格率・就職率・学生数等、の詳細情報を開示している。(年度別・個別詳細等)	自己点検結果(HP) 学校関係者評価結果(HP)

基準10 社会貢献・地域貢献

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
10-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・中学：職業教育への支援活動(仕事の学び場) ・高校：全国自動車教育研究会へ教育支援(全自研) ・地域：学園祭への招待 	コロナにより実施を見合わせていたが、学園祭も再開し、近隣地域の方々(自治会を中心に来場・模擬店の出店など)への貢献活動と考えている。	

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
10-2-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・NML/日産・自動車大学校が協賛しているエコワンチャレンジへの参加、販売会社開催のショッピングモールでの子供向けイベントへの参加など 	学校主導によるボランティア参加に留まっており、今後は学生の自主的・主体的な活動を目指す必要あり。	

基準11 国際交流【必要に応じて】

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
国際交流活動を行っているか。	NA	2年次の海外研修の中止にともない国際交流活動は行っていない。	・留学生の入学者が増えたことにより学内での国際交流(異文化交流)は行えているが、学外での国際交流活動は行っていない。	ホームページ ・実習・実技への取り組み状況 ・学校行事への取り組み状況